

2024年度 きらら西口園 保育所の自己評価

今年度は、クラスを超えて保育者同士が意見やアイデアを活発に出し合いながら日常の保育や行事に取り組むことができました。思うように進まない時も保育者間で何度も話し合いを重ね、子どもたちの最善の利益を最優先に進めることができました。このような協力体制が、より良い保育の実現につながったと感じています。

評価項目	取組み状況
1.保育理念	<p>きらら西口園では、「丈夫な身体と豊かな心を育てる」という保育目標を掲げ、年間目標や指導計画を作成しました。また、「養護と教育の一体性」を重視し、一人一人の子どもの発達を考慮しながら、生活の連続性や乳幼児期にふさわしい経験が積み重ねられるよう努めました。</p>
2.子どもの育ちと保育内容	<p>今年度も子どもたちが毎日安心した環境で生活をし、またたくさんの楽しい経験を通し成長していけるよう職員全体で保育を考えていきました。子ども達の成長は、その時期によっても異なります。その状況に合わせながら保育者間で話し合いを重ね環境設定を柔軟に行うことで、子ども達がより安心した環境で活動を行っていただけるよう努めました。今年もうんどう会や発表会では、友達と協力すること、できないことも練習を重ねることのできるようになることを学び大きな自信へとつながっていました。</p>
3.保護者に対する支援	<p>行事ごとにアンケートを実施し、貴重なご意見をいただきました。これらの意見を次年度に活かしていきたいと考えています。</p> <p>送迎時には子どもたちの様子を伝え、子育てに悩みを抱えている保護者とは面談等を行い不安を軽減できるよう努めました。</p> <p>また新たに口座振替機能を活用し保護者の方の負担軽減に努めることができました。</p>
4.保育者の資質向上	<p>階層ごとに適切な研修に参加し、子どもの発達や保育環境、実践技術や知識、リーダーとしての専門的な能力の向上を図りました。</p> <p>保育者の自己評価では保育実践を振り返り自己評価を行うことで、改善点を明確にし来年度の課題を確認することができました。</p>
5.地域や社会とのかかわり、地域子育て支援	<p>近隣で子育て中の方を対象に毎月施設体験を行いました。保育者と関わる中で、子育てについて相談を受けたり保育園に対する理解を深めてもらうことができましたと感じます。</p> <p>また、卒園児は見沼小学校の児童と交流会を持つことができ就学への期待を高めることができました。架け橋期のカリキュラムも小学校と共有して作成することができました。</p>